

令和8年度 第1回 磐田市地域公共交通会議

日時：令和8年5月28日(木)午前10時～
場所：中泉交流センター 2階会議室

令和 7 年度デマンド型乗合タクシーの実績報告について

デマンド型乗合タクシーの実績について、別紙のとおり報告する。

令和7年度 デマンド型乗合タクシー実績報告について

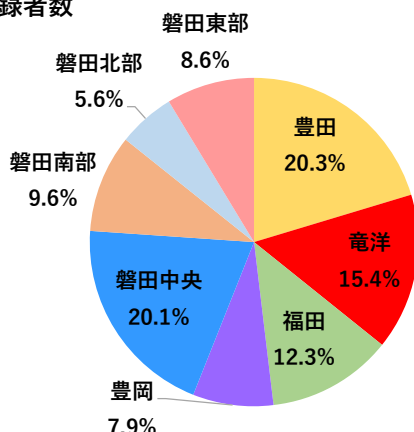
○地区別利用登録状況(令和8年3月末)

(単位:人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和7年度	2,887	2,192	1,752	1,123	2,849	1,370	798	1,228	14,199
令和6年度	2,716	2,070	1,660	1,073	2,602	1,259	747	1,158	13,285
増減	171 (+6.30)	122 (+5.89)	92 (+5.54)	50 (+4.66)	247 (+9.49)	111 (+8.82)	51 (+6.83)	70 (+6.04)	914 (+6.88)
対象人口 (R8.3)	29,452	17,852	16,277	10,278	44,903	17,971	9,668	17,356	163,757

※磐田中央地区は、65歳以上が対象

地区別利用登録者数



○地区別利用者数

※利用者数

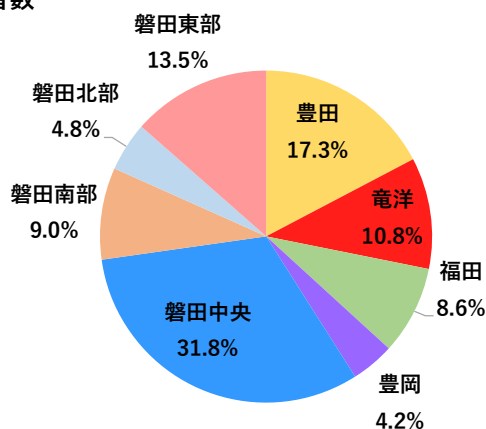
(単位:人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和7年度	10,926	6,834	5,443	2,665	20,062	5,662	3,014	8,519	63,125
令和6年度	10,026	6,442	5,196	2,444	18,949	5,477	2,295	8,102	58,931
増減 (%)	900 (+8.98)	392 (+6.09)	247 (+4.75)	221 (+9.04)	1,113 (+5.87)	185 (+3.38)	719 (+31.33)	417 (+5.15)	4,194 (+7.12)

※実利用者数

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和7年度	455	394	243	96	714	241	88	259	2,490
令和6年度	437	350	262	80	700	239	77	261	2,406
増減 (%)	18 (+4.12)	44 (+12.57)	-19 (△7.25)	16 (+20.00)	14 (+2.00)	2 (+0.84)	11 (+14.29)	-2 (△0.77)	84 (+3.49)

地区別利用者数

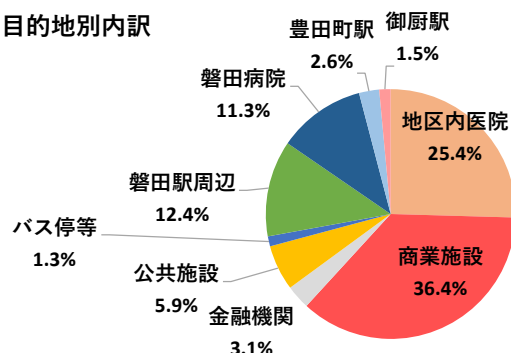


○目的地別利用状況

(単位:人)

施設	地区内医院	商業施設	金融機関	公共施設	バス停等	磐田駅周辺	磐田病院	豊田町駅	御厨駅	合計
令和7年度	16,060	22,960	1,972	3,714	821	7,852	7,155	1,665	926	63,125
令和6年度	16,173	19,882	1,984	4,295	623	7,630	6,012	1,407	925	58,931
増減 (%)	-113 (△0.70)	3,078 (+15.48)	-12 (△0.60)	-581 (△13.53)	198 (+31.78)	222 (+2.91)	1,143 (+19.01)	258 (+18.34)	1 (+0.11)	4,194 (+7.12)

目的地別内訳



○障がい者・免許証返納者の利用状況

※利用者数

(単位:人)

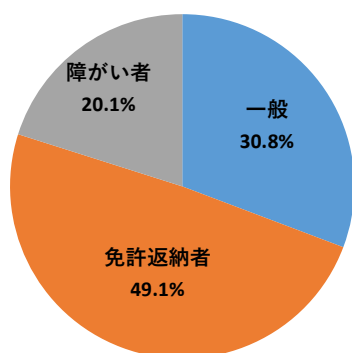
種別	一般	免許返納者	障がい者	合計
令和7年度	19,412	31,007	12,706	63,125
令和6年度	19,178	28,108	11,645	58,931
増減 (%)	234 (+1.22)	2,899 (+10.31)	1,061 (+9.11)	4,194 (+7.12)

※実利用者数

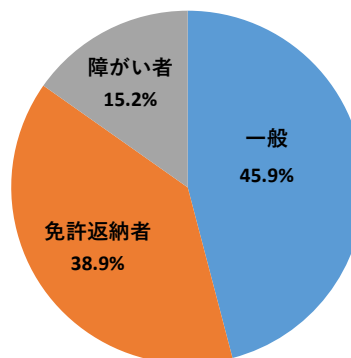
(単位:人)

種別	一般	免許返納者	障がい者	合計
令和7年度	1,143	968	379	2,490
令和6年度	1,166	915	332	2,413
増減 (%)	-23 (△1.97)	53 (+5.79)	47 (+14.16)	77 (+3.19)

利用者の内訳



実利用者の内訳

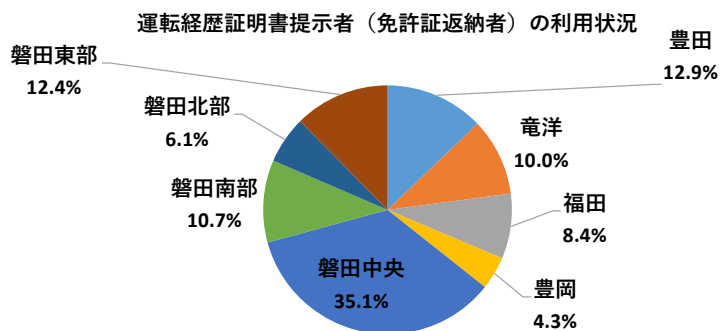


○運転経歴証明書提示者（免許証返納者）の利用状況

※利用者数

(単位:人)

地区	豊田	竜洋	福田	豊岡	磐田中央	磐田南部	磐田北部	磐田東部	合計
令和7年度	3,991	3,116	2,615	1,338	10,880	3,320	1,906	3,841	31,007
令和6年度	3,600	3,018	2,552	1,117	10,127	3,080	1,176	3,438	28,108
増減 (%)	391 (+10.86)	98 (+3.25)	63 (+2.47)	221 (+19.79)	753 (+7.44)	240 (+7.79)	730 (+62.07)	403 (+11.72)	2,899 (+10.31)

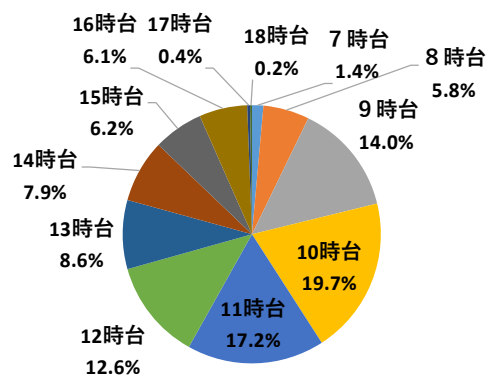


○時刻別利用状況

(単位:人)

時刻	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台
令和7年度	912	3,647	8,809	12,453	10,851	7,929	5,452	4,965	3,922	3,821	228	131
令和6年度	853	3,699	8,908	11,506	9,531	6,823	4,942	5,070	3,449	3,777	201	172
増減 (%)	59 (+6.92)	-52 (△1.41)	-99 (△1.11)	947 (+8.23)	1,320 (+13.85)	1,106 (+16.21)	510 (+10.32)	-105 (△2.07)	473 (+13.71)	44 (+1.16)	27 (+13.43)	-41 (△23.84)

時刻別利用内訳



デマンド型乗合タクシー利用状況（運行期間：R7.4.1～R8.3.31）

地区名	R8. 3末登録数	利用者数（人）				使用台数 （台）	平均乗車 数 （人/台）	運行経費 （円）	運賃収入等※ （円）	委託料 （円）	備考
		全体	1日当り	うち障害者等の数 及び割合							
竜洋地区	2, 192	6, 834	23. 3	1, 555	22. 8%	4, 352	1. 57	15, 540, 030	2, 551, 700	12, 988, 330	・ 平均年齢78. 4歳
福田地区	1, 752	5, 443	18. 6	829	15. 2%	3, 422	1. 59	11, 887, 689	3, 320, 600	8, 567, 089	・ 平均年齢78. 6歳
豊岡地区	1, 123	2, 665	9. 4	265	9. 9%	1, 639	1. 63	6, 224, 042	933, 500	5, 290, 542	・ 平均年齢81. 1歳
豊田地区	2, 887	10, 926	37. 3	3, 000	27. 5%	6, 434	1. 70	18, 252, 234	3, 554, 800	14, 697, 434	・ 平均年齢75. 9歳
磐田北部地区 （大藤・向笠・岩 田地区）	798	3, 014	10. 3	417	13. 8%	2, 112	1. 43	8, 187, 234	1, 289, 700	6, 897, 534	・ 平均年齢81. 3歳
磐田東部地区 （西貝・田原・御厨・ 南御厨地区）	1, 228	8, 519	29. 1	2, 897	34. 0%	5, 405	1. 58	17, 340, 532	2, 759, 200	14, 581, 332	・ 平均年齢70. 9歳
磐田南部地区 （天竜・長野・於保 地区）	1, 370	5, 662	19. 3	844	14. 9%	3, 532	1. 60	11, 567, 600	2, 032, 300	9, 535, 300	・ 平均年齢78. 3歳
磐田中央地区 （見付・中泉・今之 浦地区）	2, 849	20, 062	68. 5	2, 899	14. 5%	10, 334	1. 94	28, 404, 618	9, 898, 600	18, 506, 018	・ 平均年齢80. 3歳
合 計	14, 199	63, 125	215. 4	12, 706	20. 1%	37, 230	1. 70	117, 403, 979	26, 340, 400	91, 063, 579	

※運賃収入等は、利用者負担額と国庫補助金の合計額

※運行日数は293日

目的地利用割合（地区別）（運行期間：R7.4.1～R8.3.31）

地区名	地区内 医院	地区内 商業施設	金融機関	地区内 公共施設	バス停等	磐田駅 周辺	地区外 公共施設	地区外 商業施設	磐田病院	磐田駅	豊田町駅	御厨駅
竜洋地区	28.93%	18.20%	2.69%	8.74%	1.11%	5.02%	0.94%	0.00%	18.53%	4.80%	11.05%	0.00%
福田地区	31.36%	24.20%	3.20%	6.34%	0.15%	11.96%	2.22%	0.00%	12.71%	7.39%	0.00%	0.48%
豊岡地区	20.79%	53.85%	1.35%	1.69%	5.33%	0.98%	0.30%	0.00%	13.85%	1.54%	0.34%	0.00%
豊田地区	24.55%	41.70%	2.97%	6.10%	0.00%	5.66%	0.61%	0.00%	11.50%	0.42%	6.51%	0.00%
磐田北部地区 （大藤・向笠・岩田地区）	7.90%	8.26%	1.66%	0.43%	4.18%	11.11%	2.99%	48.74%	7.30%	7.07%	0.00%	0.36%
磐田東部地区 （西貝・田原・御厨・南御厨地区）	15.85%	27.37%	3.50%	2.86%	5.11%	17.62%	2.24%	0.00%	10.32%	4.70%	10.44%	0.00%
磐田南部地区 （天竜・長野・於保地区）	9.66%	46.89%	4.86%	3.48%	0.00%	9.84%	1.04%	0.00%	13.10%	7.77%	3.36%	0.00%
磐田中央地区 （見付・中泉・今之浦地区）	34.92%	38.40%	3.15%	4.72%	0.17%	3.53%	0.30%	0.00%	8.63%	6.20%	0.00%	0.00%

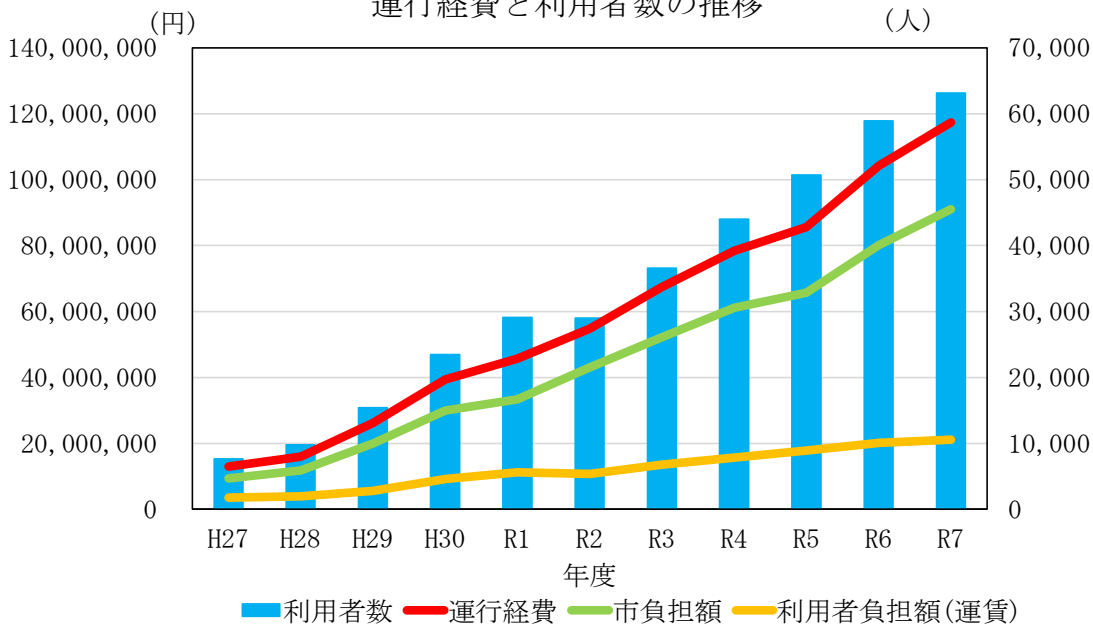
1 番利用が多い指定施設

2 番利用が多い指定施設

3 番利用が多い指定施設

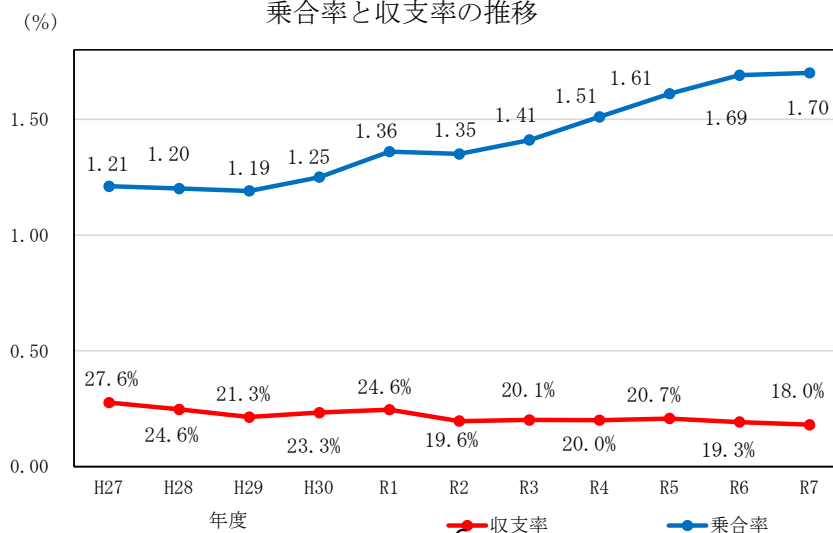
デマンド型乗合タクシー状況の推移

運行経費と利用者数の推移



年度	H27	H28	H29	H30	R1
利用者数（人）	7,645	9,782	15,416	23,511	29,095
運行経費（円）	12,908,722	15,966,060	26,112,860	39,396,020	45,736,210
市負担額（円）	9,347,572	11,817,710	19,951,510	29,971,420	33,282,346
国庫補助（円）	0	215,000	591,000	260,000	1,206,000
利用者負担額（円）	3,561,150	3,933,350	5,570,350	9,164,600	11,247,864
収支率（％）	27.6%	24.6%	21.3%	23.3%	24.6%
乗合率	1.21	1.20	1.19	1.25	1.36
年度	R2	R3	R4	R5	R6
利用者数（人）	29,001	36,563	44,013	50,707	58,931
運行経費（円）	54,885,880	67,486,520	78,398,630	85,598,540	104,259,056
市負担額（円）	43,075,980	52,185,420	61,076,130	65,704,740	80,165,556
国庫補助（円）	1,064,000	1,750,000	1,647,000	2,133,000	4,012,000
利用者負担額（円）	10,745,900	13,551,100	15,675,500	17,760,800	20,081,500
収支率（％）	19.6%	20.1%	20.0%	20.7%	19.3%
乗合率	1.35	1.41	1.51	1.61	1.69
年度	R7				
利用者数（人）	63,125				
運行経費（円）	117,403,979				
市負担額（円）	91,063,579				
国庫補助（円）	5,187,000				
利用者負担額（円）	21,153,400				
収支率（％）	18.0%				
乗合率	1.70				

乗合率と収支率の推移



令和7年度磐田市自主運行バスの実績報告について

磐田市自主運行バス（掛塚磐田線・磐田線）の実績について、別紙のとおり報告する。

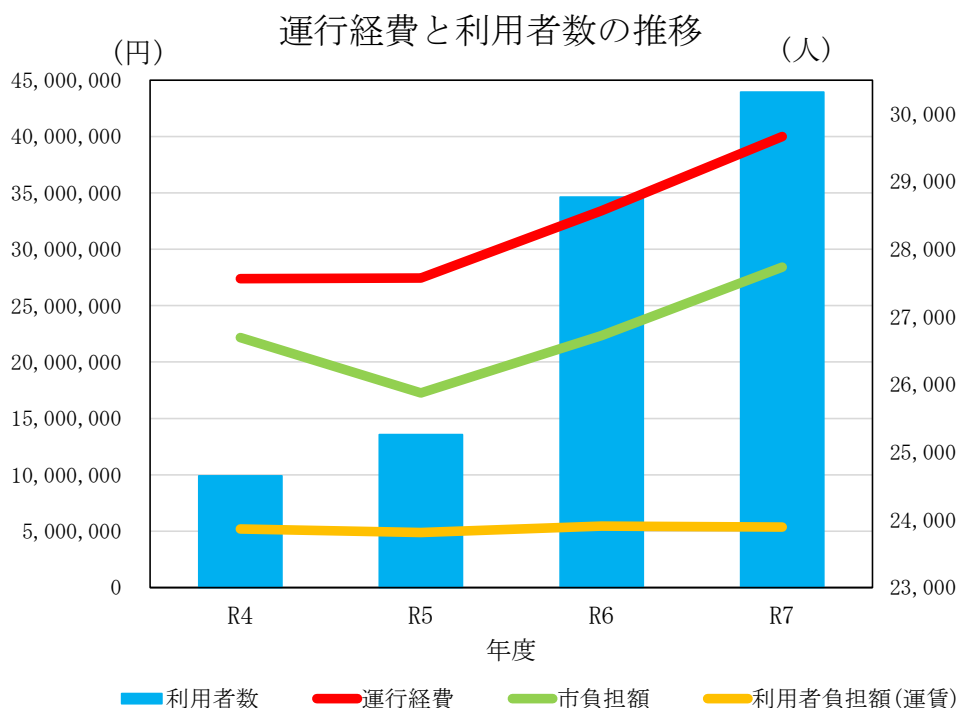
令和7年度 磐田市自主運行バス「掛塚磐田駅線」の実績報告について

○系統別利用者数

番号	系統	経路	運行便数 (往復)	利用者数 (人)	運賃収入 (円)
1	とつか系統	蟹町→とつか・豊田町駅→磐田駅	5.0	14,906	5,357,765
2	千手堂系統	蟹町→千手堂→磐田駅	4.5	9,482	
3	北高系統	蟹町→千手堂・磐田駅→磐田北高	0.5	5,937	
合計				30,325	

○運賃収入の状況

	現金	PayPay	回数券	定期券	合計
令和7年度	2,501,765	706,900	543,900	1,605,200	5,357,765
令和6年度	2,484,263	487,580	736,800	1,757,530	5,466,173
増減 (%)	17,502 (+0.70)	219,320 (+44.98)	-192,900 (△26.18)	-152,330 (△8.67)	-108,408 (△1.98)
令和5年度	2,319,566	432,155	760,900	1,362,870	4,875,491



年度	R4	R5	R6	R7
利用者数 (人)	24,652	25,263	28,776	30,325
運行経費 (円)	27,403,640	27,447,024	33,421,484	39,988,300
市負担額 (円)	22,190,075	17,269,533	22,342,311	28,407,535
県補助 (円)	0	5,302,000	5,613,000	6,223,000
利用者負担額 (円)	5,213,565	4,875,491	5,466,173	5,357,765

令和7年度 磐田市自主運行バス「磐田線」の実績報告について

○系統別利用者数

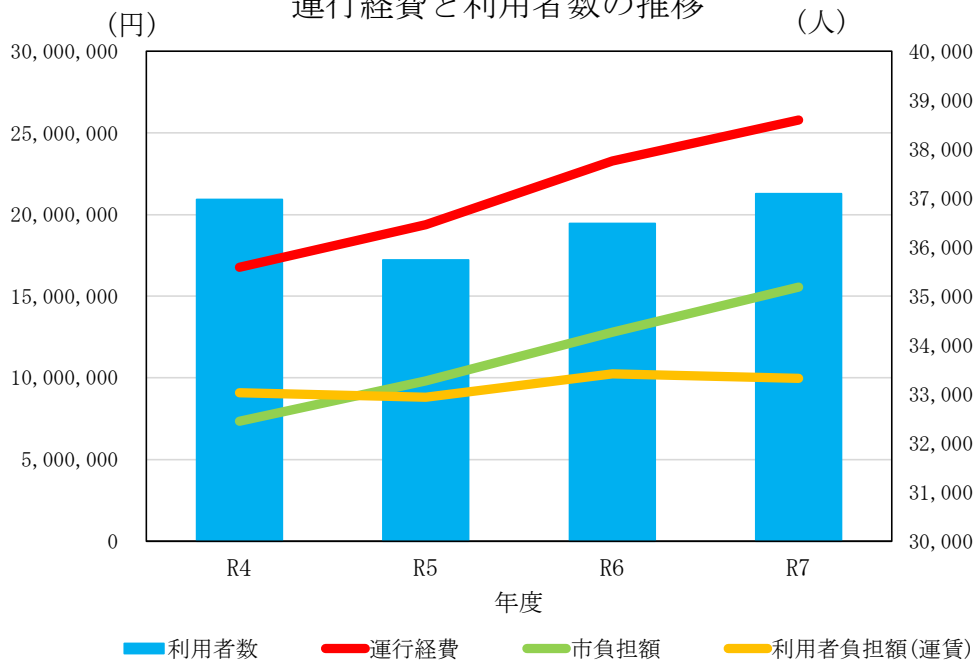
番号	系統	経路	運行便数 (往復)	利用者数 (人)	運賃収入 (円)
1	磐田	遠州森町→森山入口→磐田駅	3.0	20,662	9,980,072
2		遠州森町→森町病院→磐田駅	2.0	16,430	
合計				37,092	

○運賃収入の状況

(単位:円)

	現金	定期券	合計
令和7年度	3,070,413	6,909,659	9,980,072
令和6年度	3,200,624	7,046,947	10,247,571
増減 (%)	-130,211 (△4.07)	-137,288 (△1.95)	-267,499 (△2.61)

運行経費と利用者数の推移



年度	R4	R5	R6	R7
利用者数 (人)	36,975	35,738	36,486	37,092
運行経費 (円)	16,769,654	19,377,147	23,262,886	25,785,561
利用者負担額 (円)	9,106,293	8,820,493	10,247,571	9,980,072
その他収益 (円)	309,504	200,974	213,322	250,749
市町補助額 (円)	7,351,000	9,813,000	12,797,000	15,552,000
磐田市分 (円)	3,268,000	4,068,000	5,695,000	6,916,000
袋井市分 (円)	1,784,000	2,517,000	3,111,000	3,779,000
森町分 (円)	2,299,000	3,228,000	3,991,000	4,857,000
県補助 (磐田市分) (円)	905,000	1,308,000	1,936,000	2,291,000
磐田市負担額 (円)	2,363,000	2,760,000	3,759,000	4,625,000

令和7年度モニタリングシートの報告について

磐田市地域公共交通計画におけるモニタリングシートについて、別紙のとおり報告する。

～令和7年度モニタリングシートとは～

本市の『磐田市地域公共交通計画（令和5年3月）』では、その評価を磐田市地域公共交通会議ですることになっているため、進捗についてモニタリングシートを用いて報告するものです。

■モニタリングシート

令和8年度 磐田市地域公共交通計画モニタリングシート1【事業実施状況】

事業名		R7 実施 状況	令和7年度の 実施状況の内容	R8 実施 予定	令和8年度の 事業実施の方針
基本的な方針 暮らしの安心と人が集まる磐田市の未来を創る公共交通					
目標1 都市間や拠点間を結ぶ公共交通の確保・維持					
①	鉄道運行の維持・支援	◎	天浜線について沿線の市町と連携し、経営支援及び利用促進を行った。	◎	継続して鉄道沿線の市町と連携し、経営支援及び利用促進を実施する。
②	バス路線の維持・支援	◎	欠損額の補助により、バス事業者の負担軽減を図り、路線の維持に努めた。	◎	今後も継続して支援する。
③	バス路線退出の代替交通検討	◎	バス路線退出の申出はなかった。	○	申出があれば対応していく。
④	新規路線の検討	◎	定期的に事業者と意見交換を行った。	○	ニーズ調査を行い、運行形態の検討を行う。
目標2 拠点とその周辺地域を結ぶ地域交通の確保・維持					
①	デマンド型乗合タクシーの維持	◎	現状の運行を維持しつつ、登録施設を随時更新した。	◎	必要に応じて検討部会を開催し、随時評価や見直しをする。
②	ボランティア運送の支援	◎	モデル地区で開始されたボランティア運送への支援を行った。	◎	支援を継続すると共に、情報発信などを通じて他の地域への展開を検討する。
③	地域輸送資源の活用調査	◎	通学バスの活用について担当部署と情報共有した。	○	継続して、通学バスの活用について調査するとともに、企業や団体が保有するバス等について実態調査の方法を検討する。
目標3 公共交通の利便性向上と利用促進					
①	運行内容の見直し	◎	公共交通会議で各路線の必要性について審議した。	◎	必要に応じて検討部会を開催し、協議を行う。
②	バス停等の環境整備	◎	老朽化したデマンド型乗合タクシーの看板を更新した。	○	老朽化した看板更新を行う。
③	利用方法等の情報発信	◎	出前講座での啓発を行い、チラシを配布した。	◎	継続して、出前講座での啓発やチラシの配布に加え地域の代表者等と情報交換をする。
④	運賃の割引等	◎	デマンド型乗合タクシーについて、障害者割引及び運転免許証自主返納者割引を実施した。	◎	今後も継続して実施する。
⑤	先端技術の活用	◎	市内事業者などとの意見交換や情報交換を継続して実施した。	◎	研修や講座に参加し、「Ma a S」や自動運転の情報収集を行う。

記載要領

- 1 実施状況は、事業を実施したは◎、実施予定は○、未実施は△を記入する。
- 2 実施状況の内容は、実施した事業の内容、実施予定の内容、未実施の理由等を記入する。
- 3 事業実施の方針は、実施状況を踏まえた今後の事業実施の方針を記入する。

令和8年度 磐田市地域公共交通計画モニタリングシート2【路線運行状況】

路線名	利用者数 (人/年)	利用者 数 (人/日)	経常費用 (円/年)	経常収入 (円/年)	収支 率 (%)	経常欠損額 (円/年)	公費負担額 (円/年) [国・県] [市]	今後の 路線方針
バス路線 令和7年度								
1 磐田市立病院 福田線	213,109	584	88,979,260	41,852,084	47.0	47,127,176	48,404,400 [17,433,400] [30,971,000]	継続運行
2 中ノ町 磐田線	301,988	827	98,460,805	59,484,238	60.4	38,976,567	34,642,800 [23,542,800] [11,100,000]	継続運行
3 磐田 天竜線	325,340	956	190,282,586	88,183,332	46.3	102,099,254	96,925,600 [50,725,600] [46,200,000]	継続運行
4 掛塚さ なる台 線	64,080	176	26,061,842	15,240,311	58.5	10,821,531	9,265,600 [6,411,600] [2,854,000]	継続運行
5 城之崎 線	22,728	62	7,880,487	4,194,688	53.2	3,685,799	3,685,000	継続運行
6 磐田線	37,092	155	25,785,561	10,230,821	39.7	15,554,740	9,207,000 [2,291,000] [6,916,000]	継続運行
7 掛塚磐 田駅線	30,325	104	39,988,300	5,357,765	13.4	34,630,535	34,630,535 [6,223,000] [28,407,535]	継続運行
合 計	994,662	2,864	477,438,841	224,543,239	47.0	252,895,602	236,760,935 [106,627,400] [130,133,535]	

※磐田線の公費負担額は、磐田市分のみで袋井市、森町の運行区域分を除く。

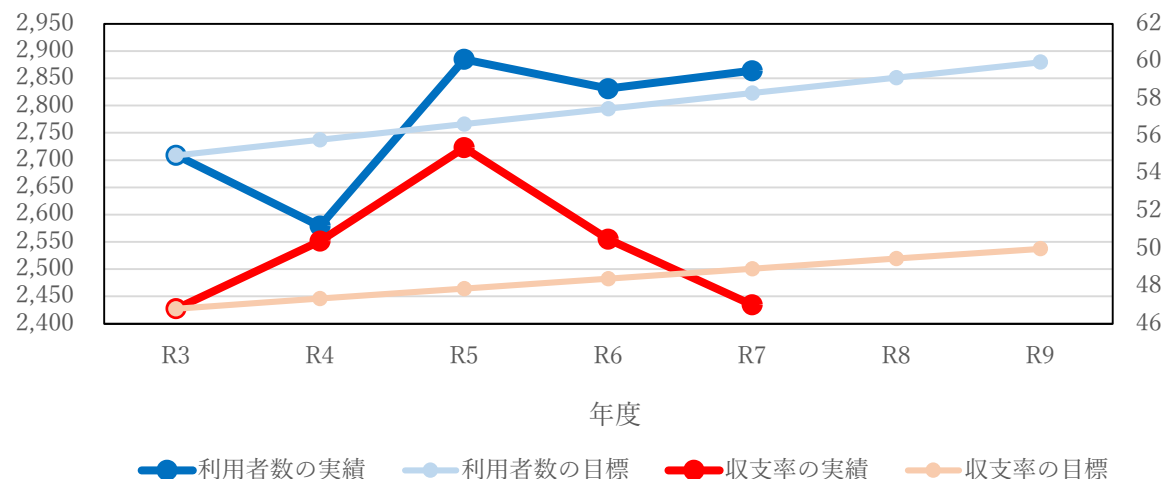
記載要領

- 1 利用者数は、年間利用者数と年間利用者数を年間運行日数で除した値を記入する。
- 2 経常費用は、年間の運行にかかる経費の合計を記入する。
- 3 経常収入は、年間の運行にかかる収入の合計を記入する。
- 4 収支率は、経常収入を経常費用で除した率を記入する。
- 5 経常欠損額は、経常費用から経常収入を引いた値を記入する。
- 6 公費負担額は、当該路線の国・県・市の補助額等の合計を記入する。
- 7 今後の路線方針は、運行見直し内容等を記入する。

利用者数(人/日)

利用者数と収支率の推移

収支率(%)



路線名	利用者数 (人/年)	利用者数 (人/日)	経常費用 (円/年)	経常収入 (円/年)	収支率 (%)	経常欠損額 (円/年)	公費負担額 (円/年) [国・県] [市]	今後の 路線方針
デマンド型乗合タクシー 令和7年度								
1 磐田 北部線	3,014	10	8,187,234	1,289,700	15.8	6,897,534	6,897,534 [1,276,000] [5,621,534]	継続運行
2 磐田 東部線	8,519	29	17,340,532	2,759,200	15.9	14,581,332	14,581,332 [3,144,000] [11,437,332]	継続運行
3 磐田 南部線	5,662	19	11,567,600	2,032,300	17.6	9,535,300	9,535,300 [2,280,000] [7,255,300]	継続運行
4 磐田 中央線	20,062	68	28,404,618	5,924,600	20.9	22,480,018	22,480,018 [3,974,000] [18,561,018]	継続運行
5 豊岡線	2,665	9	6,224,042	933,500	15.0	5,290,542	5,290,542 [1,094,000] [4,196,542]	継続運行
6 福田線	5,443	19	11,887,689	2,107,600	17.7	9,780,089	9,780,089 [1,213,000] [8,567,089]	継続運行
7 豊田線	10,926	37	18,252,234	3,554,800	19.5	14,697,434	14,697,434 [3,203,000] [11,494,434]	継続運行
8 竜洋線	6,834	23	15,540,030	2,551,700	16.4	12,988,330	12,988,330 [2,939,000] [10,049,330]	継続運行
合 計	63,125	215	117,403,979	21,153,400	18.0	96,250,579	96,250,579 [19,123,000] [77,127,579]	

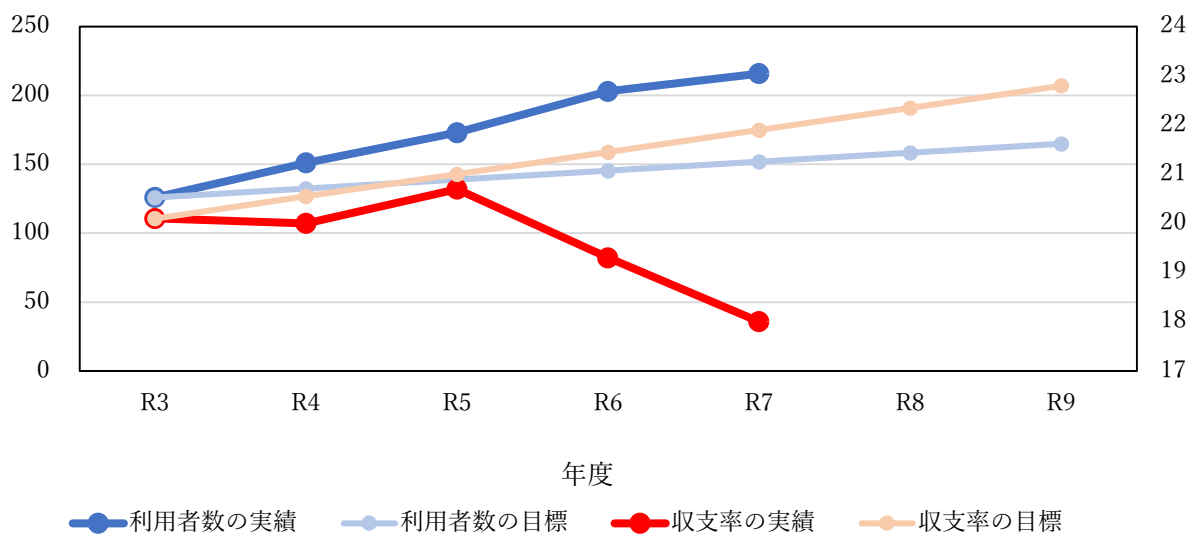
記載要領

- 1 利用者数は、年間利用者数と年間利用者数を年間運行日数で除した値を記入する。
- 2 経常費用は、年間の運行にかかる経費の合計を記入する。
- 3 経常収入は、年間の運行にかかる収入の合計を記入する。
- 4 収支率は、経常収入を経常費用で除した率を記入する。
- 5 経常欠損額は、経常費用から経常収入を引いた値を記入する。
- 6 公費負担額は、当該路線の国・県・市の補助額等の合計を記入する。
- 7 今後の路線方針は、運行見直し内容等を記入する。

利用者数(人/年)

利用者数と収支率の推移

収支率(%)



令和7年度第2回運賃検討部会の報告について

令和7年度第2回運賃検討部会について、別紙のとおり報告する。

～令和7年度第2回運賃検討部会～

本市の自主運行バスである磐田線の運賃改定をするため、令和8年2月12日に検討部会を実施したもの。

自主運行バス磐田線の運賃改定について

1 概要と目的

磐田市・袋井市・森町の 2 市 1 町で運行している「磐田線」について、近年の
人件費や燃料代、修繕費等の維持コスト、車両価格の高騰などを踏まえ、路線維
持に向けた収支改善のため、運賃改定（値上げ）を予定しています。

2 運賃改定の内容

（1）普通運賃の改定

改定率約 15%の範囲で運賃を改定

【初乗り運賃、頭打ち運賃の比較】

	現行	改定後
初乗り運賃	180 円	200 円
頭打ち運賃	730 円	1,000 円

※運賃表、小児運賃・割引運賃については、別紙 1のとおり。

（2）頭打ち運賃の改定

収支改善に向け、頭打ち運賃を、現在の 730 円から 1,000 円に引き上げる。

基準として、通学定期運賃において、頭打ち運賃改定に伴う影響が、最大で
も、普通運賃の改定率程度である約 15%に収まる金額を検討した結果、新たな
頭打ち運賃を 1,000 円とする。

【参考】通学ウィークデー定期の 1 か月運賃

（改定前）普通運賃 730 円の区間 = 16,900 円（①）

（改定後）普通運賃 1,000 円の区間 = 19,270 円（②）

② ÷ ① = 114% ⇒ 14%の増加

（3）改定日

令和 8 年 4 月 1 日予定

→ 令和 8 年 5 月 1 日から改定

※ただし、国による認可の時期によっては、4 月 1 日より遅い時期の改定
となる可能性があります。

3 収支の状況

令和 5 年度以降、運転士確保のための処遇改善や、燃料価格の高騰などにより、経常費用が大きく増加しており、収支率は低下しています。

年度	経常経費	経常収入	収支率	市町負担額	本市負担額	利用者数
R1	14,295千円	8,410千円	59%	5,885千円	2,617千円	24,334人
R2	15,580千円	7,692千円	49%	7,888千円	3,507千円	31,427人
R3	16,085千円	7,850千円	49%	8,235千円	3,653千円	31,082人
R4	16,770千円	9,416千円	56%	7,354千円	3,268千円	36,975人
R5	19,377千円	9,021千円	47%	10,356千円	4,608千円	35,738人
R6	23,263千円	10,461千円	45%	12,802千円	5,695千円	36,486人
R7（見込）	27,101千円	10,450千円	39%	16,651千円	7,407千円	38,987人

※市町負担額は 2 市 1 町（磐田市、袋井市、森町）の合計額です。R7 利用者数は推計です。

4 スケジュール

日程	内容
1 月 27 日 ～ 5 日	○意見聴取の実施 各市町ホームページ掲載及び磐田線各バス停に案内を掲示 （磐田市、袋井市、森町の各市町で同時に実施）
2 月上中旬	磐田市公共交通会議運賃検討部会の実施 （各市町別々で実施 磐田市(2/12)、袋井市(2/9)、森町(2/10 書面)）
2 月中下旬	国への認可申請（秋葉バスサービス株式会社から）
3 月	運賃改定の周知（市町ホームページ、沿線高校への説明等を予定） （磐田市、袋井市、森町で実施）
4 月 1 日～ 5 月 1 日 (予定)	運賃改定

※ 運賃検討部会とは…

一般乗合旅客自動運送事業者（今回は秋葉バスサービス株式会社となります）が旅客の運賃及び料金に変更を加える場合に、道路運送法第 9 条第 4 項及び第 5 項に基づき、「あらかじめ、公聴会その他の住民、利用者その他利害関係者の意見を反映させる措置」を講じたうえで、「地域における需要に応じ当該地域の住民の生活のための旅客の運送を確保する必要がある路線又は営業区域に係る運賃等について協議」を行うものです。

本市では、「磐田市地域公共交通会議検討部会設置要領」に基づき、利害関係者等の意見反映及び、運賃等の協議を行います。

上段 改定後運賃
下段 現行運賃

- 1 小児運賃の対象となる方
 - ・ 6歳以上12歳未満の方
- 2 福祉割引の対象となる方
 - ・ 本人 降車時に身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳を提示する障がい者ご本人
 - ・ 介護人（1人まで） 身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とともに乗車する場合
- 3 児童福祉法適用者割引の対象となる方
 - ・ 本人 児童福祉施設入所児童割引証を提示してご乗車の場合

[illegible]

中学校		高校	
① 春野中学校	⑧ 大須賀中学校	14 天竜高校春枝校舎	21 磐田南高等学校
② 森中学校	⑨ 大浜中学校	15 遠江総合高等学校	22 磐田西高等学校
③ 旭が丘中学校	10 向陽中学校	16 袋井商業高等学校	23 磐田農業高等学校
④ 周南中学校	11 磐田第一中学校	17 袋井高等学校	24 磐田東高等学校
⑤ 袋井中学校	12 城山中学校	18 掛川東高等学校	25 静岡理科大学
⑥ 袋井南中学校	13 磐田東中学校	19 横須賀高等学校	26 農林大学校
⑦ 浅羽中学校		20 磐田北高等学校	

中学校		高校	
① 春野中学校	⑧ 大須賀中学校	⑭ 天竜高校春野校舎	⑳ 磐田南高等学校
② 森中学校	⑨ 大浜中学校	⑮ 遠江総合高等学校	㉑ 磐田北高等学校
③ 旭が丘中学校	⑩ 向陽中学校	⑯ 袋井商業高等学校	㉒ 磐田農業高等学校
④ 周南中学校	⑪ 磐田第一中学校	⑰ 磐田高等学校	㉓ 磐田東高等学校
⑤ 袋井中学校	⑫ 城山中学校	⑱ 掛川東高等学校	大学
⑥ 袋井南中学校	⑬ 磐田東中学校	⑲ 横須賀高等学校	㉔ 静岡理工科大学
⑦ 浅羽中学校		㉚ 磐田北高等学校	㉕ 農林大学校

ROUTE MAP

【公式】秋葉バスファンX(旧Twitter)
(バスファン向け)



デマンド型乗合タクシーの運行内容の変更について

デマンド型乗合タクシーの運行内容を下記のとおり変更するものとする。

記

1 地区内施設

- (1)磐田中央地区の指定施設「ハートセンター磐田」を「ハートクリニック磐田」に改める。
- (2)磐田中央地区の指定施設「鈴木歯科医院」の住所を変更する。
- (3)豊田地区に指定施設「みずのクリニック」を追加する。
- (4)福田地区の指定施設「大橋医院」を削除する。
- (5)福田地区の指定施設「歯科クリニックあやな」を削除する。
- (6)福田地区の指定施設「寺田歯科医院」を削除する。

2 地区内施設の運賃

【住所変更】

路線名	施設名	変更前	変更後	運賃(片道)
磐田 中央地区	鈴木歯科医院 (中泉)	磐田市中泉 2982-1	磐田市中泉 2502-2	400 円/人

【新規追加】

利用者宅区分	⇔	施設名	住所	運賃(片道)
豊田地区	⇔	みずのクリニック	磐田市森岡 160-1	400 円/人

3 実施時期

令和 8 年 7 月 1 日から

地域内フィーダー系統確保維持改善計画について

磐田市地域内フィーダー系統確保維持改善計画について、別紙のとおり策定するものとする。

～磐田市地域内フィーダー系統確保維持改善計画とは～

この計画は、デマンド型乗合タクシーのうち福田線と磐田中央線が国の補助制度の対象になっているため、本会議で補助申請に必要な計画を策定するものです。

磐田市地域内フィーダー系統確保維持改善計画の策定について

1 要旨

デマンド型乗合タクシー福田線及び磐田中央線の運行は、国の補助制度の対象です。この補助制度の交付要件を満たすため、地域公共交通会議での合意が必要とされる「地域内フィーダー系統確保維持改善計画」を策定するものです。

2 交付要件（主な項目）

- ① 補助対象地域間幹線バス系統と接続するものであること
- ② 新たに運行するものであること（平成 24 年度以降）
- ③ 地域公共交通会議による議論を経た計画に基づき実施されるものであること

※デマンド型乗合タクシー（福田線及び磐田中央線）は、地域間交通の役割を担う遠州鉄道の主要バス停や J R 磐田駅等を運行目的地とすることにより、幹線バス系統等のフィーダー＝枝葉としての役割を果たしています。

3 補助申請対象期間

令和 8 年 10 月～令和 9 年 9 月（令和 8 年度、令和 9 年度）

4 対象となる運行系統名

- ① デマンド型乗合タクシー福田線
- ② デマンド型乗合タクシー磐田中央線

5 事業の目標、効果

○目標（令和 9 年度）

福 田 線：一日当たりの利用者数 19.3 人（※ $17.5 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 19.29 \text{ 人}$ ）

交通結節点利用者数 477 人（※ $432 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 476.28 \text{ 人}$ ）

磐田中央線：一日当たりの利用者数 75.9 人（※ $68.8 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 75.85 \text{ 人}$ ）

交通結節点利用者数 1,315 人（※ $1,193 \text{ 人} \times 1.05 \times 1.05 \div 1,315.28 \text{ 人}$ ）

※ 目標値は、現状実績値に目標伸び率を乗じて設定しています。

○効果 地域内フィーダー系統を確保・維持するとともに、民間路線バスが利用できない区域を解消し、高齢者など交通弱者の日常生活に必要な交通手段が確保されます。

目標設定参考表

1 現状実績値（福田線）

年度	利用者数/日 (前年比)	交通結節点 利用者数	運行内容の主な変更
平成 25 年度 (H24. 10～H25. 9)	3. 4 人 (-)	77 人	H24. 10 運行開始
平成 26 年度 (H25. 10～H26. 9)	4. 1 人 (1. 20)	89 人	H25. 10 総合病院追加
平成 27 年度 (H26. 10～H27. 9)	5. 8 人 (1. 41)	105 人	H27. 4 運賃減額 地区内 500 円→400 円
平成 28 年度 (H27. 10～H28. 9)	5. 7 人 (0. 98)	132 人	
平成 29 年度 (H28. 10～H29. 9)	5. 4 人 (0. 94)	248 人	H29. 4 土曜開始、昼便追加
平成 30 年度 (H29. 10～H30. 9)	6. 7 人 (1. 24)	213 人	H30. 4 運賃減額 総合病院 1, 500 円→1, 000 円
令和元年度 (H30. 10～R01. 9)	8. 1 人 (1. 20)	226 人	
令和 2 年度 (R01. 10～R02. 9)	7. 3 人 (0. 90)	246 人	R2. 4 運転経歴証明書提示者（65 歳以上）の 運賃半額の正式導入、御厨駅追加
令和 3 年度 (R02. 10～R03. 9)	9. 2 人 (1. 26)	158 人	
令和 4 年度 (R03. 10～R04. 9)	9. 4 人 (1. 02)	289 人	
令和 5 年度 (R04. 10～R05. 9)	13. 1 人 (1. 39)	312 人	
令和 6 年度 (R05. 10～R06. 9)	<u>16. 2 人</u> (1. 24)	<u>390 人</u>	
令和 7 年度 (R06. 10～R07. 9)	<u>17. 5 人</u> (1. 30)	<u>432 人</u>	

2 現状実績値（磐田中央線）

年度	利用者数/日 (前年比)	交通結節点 利用者数	運行内容の主な変更
平成 28 年度 (H28. 01～H28. 9)	6. 2 人 (-)	153 人	H28. 1 運行開始
平成 29 年度 (H28. 10～H29. 9)	7. 7 人 (1. 24)	253 人	H29. 4 土曜開始、昼便追加
平成 30 年度 (H29. 10～H30. 9)	14. 8 人 (1. 92)	383 人	H30. 4 運賃減額 総合病院 1, 500 円→1, 000 円 利用対象年齢 75 歳以上→65 歳以上
令和元年度 (H30. 10～R01. 9)	25. 0 人 (1. 69)	1, 003 人	
令和 2 年度 (R01. 10～R02. 9)	27. 6 人 (1. 10)	785 人	R2. 4 運転経歴証明書提示者（65 歳以上）の 運賃半額の正式導入
令和 3 年度 (R02. 10～R03. 9)	33. 7 人 (1. 22)	475 人	
令和 4 年度 (R03. 10～R04. 9)	37. 6 人 (1. 11)	555 人	
令和 5 年度 (R04. 10～R05. 9)	47. 1 人 (1. 25)	699 人	
令和 6 年度 (R05. 10～R06. 9)	58. 0 人 (1. 23)	908 人	
令和 7 年度 (R06. 10～R07. 9)	68. 8 人 (1. 19)	1, 193 人	

3 目標伸び率

磐田市公共交通計画にて伸び率の目標を前年比 1. 05と定めており、目標の達成のため、磐田駅等の交通結節点における利用促進を図り、利用者を獲得していきます。

令和8年 月 日

(名称) 磐田市地域公共交通会議

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

磐田市においては、主に通勤通学時の大量輸送手段として、幹線交通である路線バスが近隣の浜松市・袋井市・森町等と本市を結ぶ広域路線4路線で運行されており、磐田駅を中心に放射状に路線網が形成されている。また、磐田市への訪問者や高齢者等の日常生活の足となっている一般タクシーにより成り立っている。

自主運行バスの代替手段として運行しているデマンド型乗合タクシーは、バス路線など既存の公共交通への乗り継ぎを図りつつ、通院や買い物など日常生活に必要な移動手段としての役割を果たしている。利用者数は増加傾向にあり、車を運転できない高齢者等の利用割合は高く、利用者からは一定の評価を得ている。

このため、地域公共交通確保維持改善事業により、デマンド型乗合タクシー「福田線」及び「磐田中央線」を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

(福田線)

指標	現状※1		目標値 (R8) ※2
一日当たりの利用者数	17.5 人	→	19.3 人
交通結節点 (主要バス停、JR 磐田駅・御厨駅) 利用者数	432 人	→	477 人

(磐田中央線)

指標	現状※1		目標値 (R8) ※2
一日当たりの利用者数	68.8 人	→	75.9 人
交通結節点 (主要バス停、JR 磐田駅) 利用者数	1,193 人	→	1,315 人

※1 令和6年10月～令和7年9月の数値

※2 目標値の期間は令和8年10月～令和9年9月

(2) 事業の効果

地域内フィーダー系統を確保・維持することにより、民間路線バスが利用できない区域を解消するとともに、高齢者など交通弱者の日常生活に必要な交通手段が確保される。

運行目的地については、日常生活に最低限必要な施設に絞ることにより他の公共交通との整合を図るほか、民間路線バス（遠州鉄道「磐田市立病院福田線」）の主要バス停や JR 磐田駅などの交通結節点と結び、これらのフィーダーとしての役割を果たす。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

デマンド型乗合タクシーの運行内容の周知、啓発（磐田市、事業者）

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び 運送予定者
別表1のとおり
5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額
6. 2. の目標・効果の評価手法及び測定方法
目標値の達成
7. 別表1の補助対象事業の基準ホただし書に基づき、協議会が平日1日当たりの 運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要 <u>【地域間幹線系統のみ】</u>
※該当なし
8. 別表1の補助対象事業の基準ニに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村 に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧 <u>【地域間幹線系統のみ】</u>
※該当なし
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期 及びその他特記事項 <u>【地域間幹線系統のみ】</u>
※該当なし
10. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 <u>【地域内フィーダー系統のみ】</u>
表5のとおり
11. 車両の取得に係る目的・必要性 <u>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けよ うとする場合のみ】</u>
※該当なし
12. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 <u>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けよ うとする場合のみ】</u>
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果
※該当なし
13 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費 用の総額、負担者とその負担額 <u>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式 車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u>
※該当なし
14. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における 収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用 した利用促進策） <u>【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u>
※該当なし
15. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 <u>【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</u>
※該当なし

16. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果

【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】

(1) 事業の目標

※該当なし

(2) 事業の効果

※該当なし

17. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額 **【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】**

※該当なし

18. 協議会の開催状況と主な議論

- ・ 平成28年 5 月26日 本計画の協議
- ・ 平成29年 1 月18日 福田線、磐田中央線運行内容の見直し
 ・ 運行日、運行時刻の追加 ・ 指定施設の追加 など
- ・ 平成29年 5 月31日 磐田中央線運行内容見直しの提案
 ・ 運行日、運行時刻の追加 ・ 指定施設の追加 など
- 本計画の協議
- ・ 平成29年12月20日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 運行日、運行時刻の追加 ・ 指定施設の追加 など
- ・ 平成30年 5 月31日 磐田中央線運行内容の見直し
 ・ 指定施設の追加
- 本計画の協議
- ・ 平成30年12月25日 8 路線運行内容の見直し
 ・ 指定施設の追加 ・ 車両配置数の変更
- ・ 令和元年 5 月31日 磐田中央線運行内容の見直し
 ・ 指定施設の追加
- 本計画の協議
- ・ 令和元年12月25日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 運行日、運行時刻の追加 ・ 指定施設の追加 など
- ・ 令和 2 年 5 月30日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の削除、追加
- 本計画の協議
- ・ 令和 2 年12月25日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 運行時刻の追加 ・ 指定施設の追加 など
- ・ 令和 3 年 6 月 2 日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の追加
- 本計画の協議
- ・ 令和 3 年12月15日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の削除、追加
- ・ 令和 4 年 4 月27日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の追加
- ・ 令和 4 年 6 月 1 日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の削除、追加
- 本計画の協議
- ・ 令和 4 年10月17日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の追加、所在地変更、名称変更
- ・ 令和 4 年12月27日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の削除、所在地変更
- ・ 令和 5 年 5 月30日 磐田中央線ほか運行内容の見直し
 ・ 指定施設の削除、追加
- 本計画の協議

・ 令和 5 年 7 月 13 日	磐田中央線運行内容の見直し ・ 指定施設の追加
・ 令和 6 年 5 月 31 日	磐田中央線ほか運行内容の見直し ・ 指定施設の追加、運行時刻の追加 本計画の協議
・ 令和 7 年 6 月 2 日	磐田中央線ほか運行内容の見直し ・ 指定施設の名称変更、削除、追加 本計画の協議
・ 令和 8 年 1 月 21 日	磐田中央線ほか運行内容の見直し ・ 指定施設の名称等変更、削除、追加
・ 令和 8 年 5 月 28 日	磐田中央線ほか運行内容の見直し ・ 指定施設の名称等変更、削除、追加 本計画の協議
19. 利用者等の意見の反映状況	
・ 自治会、老人クラブ、民生委員、福祉団体関係者と協議 ・ 利用登録者アンケート調査の実施 ・ 車内アンケート調査の実施 ・ 自治会、老人クラブ、高齢者サロン等への出前講座開催	

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 静岡県国府台 3 番地 1
 (所 属) 自治市民部自治デザイン課
 (氏 名) 倉谷 隼基
 (電 話) 0538 - 37 - 4751
 (e-mail) chiiki-ohen@city.iwata.lg.jp

注意： 本様式はあくまで参考であり、補助要綱の要件を満たすものであれば、この様式によらなくても差し支えありません。

実際の計画作成に当たっては補助要綱等を踏まえて作成をお願いいたします。

各記載項目について、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画を作成している場合には、当該計画から該当部分を転記したり、別添〇〇計画△節のとおり、等として引用したりすることも可能です。(ただし、上記 2.・3. については、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画に定める目標、当該目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項との整合性を図るようにして下さい。また、地域公共交通計画全体として、協議会における協議が整った上で提出される必要があります)。

※該当のない項目は削除せず、「該当なし」と記載して下さい。

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者(地域内フィーダー系統)

令和8年度

市区町村名	運送予定者名	運行系統名等 (申請番号)	運行系統			系統 キロ程	計画 運行 日数	計画 運行 回数	利 便 増 進 特 例 措 置	運 送 継 続 特 例 措 置	地域内フィーダー系統の基準適合 (別表7・別表9・別表10)			
			起点	経由地	終点						運行態様の別	基準ハで 該当する 要件 (別表7・9)	補助対象地域間幹 線系統等と接続の 確保	基準ホで該 当する要件 (別表7のみ)
磐田市	遠鉄タクシー株式会社	(1) デマンド型乗合タク シー 「福田線」		福田地区、磐田 駅周辺、御厨駅 及び磐田市立総 合病院等		往 km 復 km	294日	2352回			区域	①	地区間幹線系統で ある遠州鉄道「磐田 市立病院福田線」 の「福田車庫」・「大 原団地」にて接続	③
	遠鉄タクシー株式会社	(2) デマンド型乗合タク シー 「磐田中央線」		磐田中央地区 (見付・中泉・今 之浦)、磐田市立 総合病院等		往 km 復 km	294日	7938回			区域	①	地区間幹線系統で ある遠州鉄道「磐田 市立病院福田線」 の「美登里町上」に て接続	③

(注)

1. 乗用タクシーによる運行の場合は、「運行系統名等」に運賃低廉化を行う運行サービスの名称を記載すること。
2. 区域運行又は乗用タクシーによる運行の場合は、運行系統の「経由地」に営業区域又は運賃低廉化対象地域を記載することとし、「起点」、「終点」及び「系統キロ程」について記載を要しない。
3. 「系統キロ程」については、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで記載すること。なお、循環系統の場合には、往又は復のどちらかの欄にキロ程を記載し、もう片方の欄に「循環」と記載すること。
4. 「利便増進特例措置」及び「運送継続特例措置」については、利便増進計画又は運送継続計画の認定を受け、地域内フィーダー系統に係る特例措置の適用(別表9又は別表10)を受けて補助対象となる場合のみ「○」を記載すること。
5. 「運行態様の別」については、路線定期運行、路線不定期運行、区域運行、乗用タクシーによる運行の別を記載すること。
6. 「補助対象地域間幹線系統等と接続の確保」については、地域内フィーダー系統が接続する補助対象地域間幹線系統又は地域間交通ネットワークとどのように接続を確保するかについて記載すること。
7. 乗用タクシーによる運行の場合は、「運行系統名」「利便増進特例措置」について記載を要しない。
8. 本表に記載する運行予定系統を示した地図及び運行ダイヤを添付すること。乗用タクシーによる運行の場合は、営業区域を示した地図を添付すること。

表5 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要

市区町村名	磐田市
-------	-----

(単位:人)

	人 口
人口集中地区以外	92,557
交通不便地域等	

交通不便地域等の内訳

人 口	対象地区	根拠法

地域公共交通計画、地域公共交通利便増進実施計画、地域旅客運送サービス継続実施計画の策定年月日及び特例適用開始年度

計画名	策定年月日	特例適用開始年度
磐田市地域公共交通計画	令和5年3月24日	

(1)記載要領

1. 人口は最新の国勢調査結果を基に記載すること。ただし、地方運輸局長等が指定する交通不便地域の場合は、申請する年度の前年度の3月末現在の住民基本台帳を基に記載すること。
2. 「人口集中地区以外」の欄は、国勢調査結果により設定された人口集中地区に該当しない地区の人口を記載すること。
3. 「交通不便地域等」の欄は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（以下、「交付要綱」という。）の別表7（ハ②（1））に記載のある過疎地域の人口、交付要綱別表7（ハ②（2）（実施要領の2.（1）①））に基づき地方運輸局長等が指定する交通不便地域の人口及び交付要綱別表7リに基づき地方運輸局長等が認める地域の合計（重複する場合を除く）を記載すること。
4. 「対象地区」の欄には、当該市町村の一部が交付要綱別表7（ハ②（1））に掲げる法律（根拠法）に基づき地域指定されている場合に、根拠法ごとに当該区域の旧市町村名等を記載すること。また、地方運輸局長等が指定する交通不便地域等が存在する場合には、該当する区域名を記載すること。
5. 「根拠法」の欄は、交通不便地域を地方運輸局長等が指定した場合は、「局長指定」と記載すること。また、乗用タクシー以外での輸送が著しく困難であるものとして地方運輸局長等が認めた場合は、「局長指定（乗用）」と記載すること。
6. 「特例適用開始年度」の欄は、地域公共交通利便増進実施計画又は地域旅客運送サービス継続実施計画を策定し、特例を適用する場合に記載すること。

(2)添付書類

1. 「人口集中地区以外の地区」及び「交通不便地域等」の区分が分かる地図を添付すること。（ただし、全域が交通不便地域等となる場合には省略可）

交通空白解消対策事業について

交通空白解消対策事業について、別紙のとおり実施するものとする。

～交通空白解消対策事業とは～

令和 8 年度に国土交通省が実施する「令和 8 年度『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」における補助金事業を活用し、市域内の交通空白を調査するもの。



- 「『交通空白』解消に向けた取組方針」に基づき、令和7～9年度の集中対策期間において、全国に存在する「交通空白」解消に目処をつけるため、**「交通空白」地区等において**、公共ライドシェア・デマンド交通・乗合タクシー等の導入や、医療・福祉・教育等の他分野の関係者が連携して移動手段を支える仕組みの構築を**調査から運行までをトータルで支援**。

対象主体

地方公共団体、交通事業者、公共ライドシェアの実施主体であるNPO法人、協議会等又はこれらを含む協議会・連携スキーム

- ※ 「交通空白」リストアップに記載のある地域を実施エリアに含む事業を対象とする。
- ※ 「交通空白」解消・官民連携プラットフォームに参加している者に限る。
- ※ 地方自治体の推薦および地方運輸局または運輸支局の事前協議を必須とする。



▲各地の取組例

左：被災地へのデマンド交通導入（石川県輪島市）

右：交通結節点からの「観光の足」確保（熊本県人吉市～鹿児島県霧島市）

補助対象経費



- ①事業実施のための基礎データ収集・分析、協議会・説明会等開催に要する費用
(ヒアリング調査・利用予測シミュレーション、有識者謝金・会場使用料 等)

- ②サービス提供のために必要となる輸送施設の導入、配車アプリ・運行管理等のシステム開発・導入、
③サービス提供に際し実施する広報や運転者募集・研修等に要する経費
(輸送施設の設置、リースによる取得、仕切板・ドライブレコーダー等の設置等の改造、運転者を募集するための広告費用 等)

- ④サービス提供に際し実施する要する費用
(運行経費、実証事業後の利用データ分析、路線・区域・料金設定等の検討 等)

補助率

500万円まで定額、それを超える場合は2／3（上限1億円）

- ※東京23区および三大都市圏の政令指定都市（川崎・横浜・相模原・さいたま・千葉・名古屋・京都・大阪・堺・神戸）は補助率1／3（定額無し）
- ※車両購入に係る費用については定額補助の対象外（車両購入は、対象事業者自身が有する車両がサービス提供のために活用することができない場合に限る）
- ※商業・福祉・教育等の他分野の関係者が実質的に運行に関わる（人的・物的・金銭的）場合、定額の引き上げ（上限750万円）

令和8年度「交通空白」解消緊急対策事業の活用について（案）

1. 目的及び要旨

令和8年度に国土交通省が実施する「令和8年度『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」における補助金事業を活用し、以下の目的のため調査業務を委託する。

- ・交通空白の有無を把握し、制度の拡充や新たなサービスの導入を検討するため。
- ・令和9年度までの「磐田市地域公共交通計画」の改定にあたり、市域内の公共交通の分析及び市民ニーズを把握するため。

2. 補助金概要

対象者：公共ライドシェア等新たな交通サービスを導入する運行主体

対象経費：事業実施のための基礎データ収集・分析に要する費用、車両や配車アプリ等の導入に要する費用、実証事業に要する費用など

補助額：500万円まで定額、それ以上を超える部分は2/3（上限1億円）

3. 委託内容

- ①データ収集・分析：利用者データや人流データにより分析（470万円）
現状のデータ整理、人流データによる利用実態の可視化
- ②ヒアリング調査：市民意識調査及び利用者調査（360万円）
高校生、自治会、公共交通利用者にアンケート、SNSの活用等
- ③導入案等検討：既存の公共交通の改善点や今後の方向性を検討（230万円）
- ④実証実験：改善点や拡充策を実証的に運行（240万円）
デマンドの部分的拡充（曜日、時間帯の追加）

4. 予算措置

2款7項3目「令和8年度「交通空白」解消緊急対策事業」 1,300万円（当初予算額）

※内訳：国庫補助金 775万円（減額採択） 市単独 525万円

5. スケジュール

- | | |
|-----------|------------------|
| 令和8年5～6月 | プロポーザルにより事業者選定 |
| 7～9月 | データ収集・分析、ヒアリング調査 |
| 10～11月 | 導入案等検討 |
| 12～1月 | 実証実験 |
| 令和9年4～12月 | 公共交通計画改訂業務委託 |

【静岡県磐田市】事業名：交通空白解消対策事業

「交通空白」解消タイプ

応募様式1

事業費

事業全体費用：1,300万円、補助対象経費：1,033万

事業主体/運行主体

磐田市／調査委託事業者（未定）、遠鉄タクシー(株)

事業背景・目的

デマンド型乗合タクシーを全地区で運行し始めてから10年以上が経ち、市民の日常生活における最低限の移動手段として浸透してきた。しかし、運行開始以降、路線バスが退出した地区もあり、**通勤や通学、地域活動への参加などの移動需要に対応しきれていない**。高校生などの若者や高齢者の移動需要を把握し、時間的な交通空白を解消することを目的とする。

また、近年の課題である移動手段不足における家族の負担を軽減する。

事業概要

交通サービス	乗合型デマンドタクシー（一般乗合旅客自動車運送）
運行形態	区域運行
法的区分	道路運送法第4条
運行頻度	(例)月曜～土曜・8時～16時 ➡ 月曜～日曜・7時～18時
運賃	地区内400円、地区外800円 外
実施内容	通勤や通学含め、幅広い利用者の需要に対応するため、全地区に 朝夕の便、日曜日 の運行を追加する。

運行期間

令和8年12月から令和9年1月まで

事業実施地域

地区名はふりがなも記入すること



【市内全域（8路線）】

竜洋（りゅうよう）線、福田（ふくで）線、
豊岡（とよおか）線、豊田（とよだ）線、
磐田北部（いわたほくぶ）線、
磐田東部（いわたとうぶ）線、
磐田南部（いわたなんぶ）線、
磐田中央（いわたちゅうおう）線

事業イメージ

早朝、夕方の便、及び日曜日の運行を追加



運行便	発車時刻
第1便	8:00
第2便	9:00
第3便	10:00
第4便	11:00
第5便	12:00
第6便	14:00
第7便	16:00

運行便	発車時刻
第1便	7:00
第2便	8:00
第3便	9:00
第4便	10:00
第5便	11:00
第6便	12:00
第7便	13:00
第8便	14:00
第9便	15:00
第10便	16:00
第11便	17:00
第12便	18:00

見込まれる事業効果

【定性・定量効果】

・実証運行期間中、1カ月の利用者数 約700人増

【「交通空白」への効果】

・市内全地区の時間的な「交通空白」を解消
・交通弱者の家族負担の軽減



バスの妖精「ハッピー」

バスに乗って、出かけよう。



Happy Ride in Shizuoka Project

～2026小学生バス無料デー実施～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会
(事務局：静岡県バス協会、県交通政策課)

背景と目的、目指す姿

背景

- ・少子高齢化、人口減少、モータリゼーションの普及による長期的な乗合バス利用者の減少
- ・バスドライバーの高齢化による運転手不足への危機感



目的

- ・小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- ・地域の移動手段である路線バスを将来に渡り維持するため、社会全体で「乗って育む」意識を啓発
- ・皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減



目指す姿

- ・マイカーから地域公共交通への転換（モビリティマネジメントの推進）
- ・バスが楽しい、（無料デーでなくても）バスに乗りたい小学生の増加
- ・子どもをバスに寄せたいと思う保護者の増加



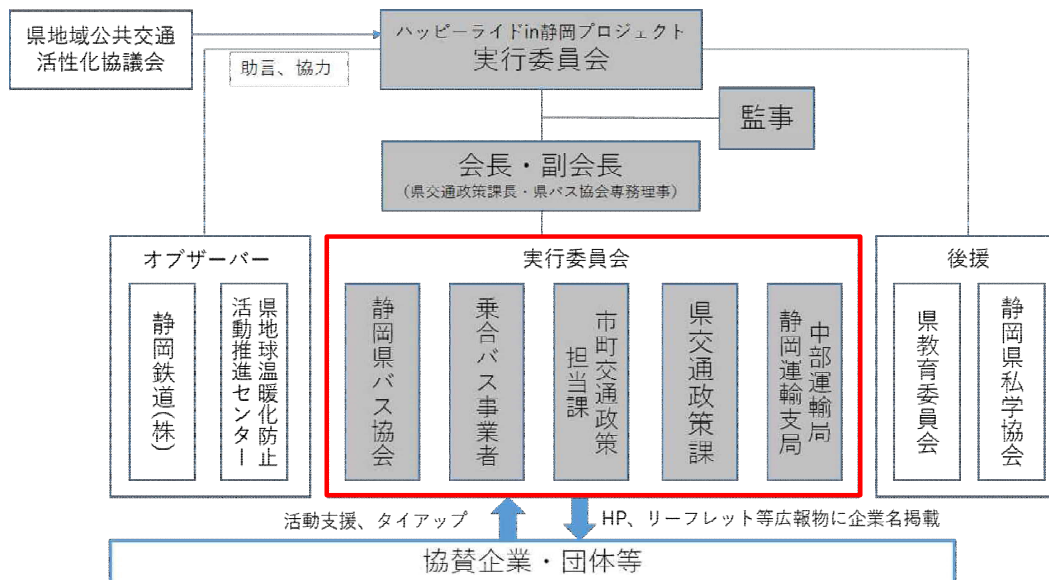
バス利用頻度の増加



実施体制

概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、**県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施**
(小学生を対象とした全県規模の実施は他にない)



2

これまでの取組

項目	R 6	R 7
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 約 <u>173,000</u> 人 (国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校の全児童)	静岡県内の学校に通う小学生 約 <u>168,000</u> 人 (同左)
実施日	令和6年12月7日(土) ～8日(日) 2日間	令和7年12月13日(土) ～14日(日) 2日間
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス (土日運休路線、高速道路走行路線、空港アクセス線等を除く)	
タイアップイベント	・無料デーと合わせたイベント実施 (<u>31施設</u>) ・クルボ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待(抽選)	・無料デーと合わせたイベント実施 (<u>44施設</u>) ・クルボ脱炭素アクションでポイントUP ・アンケートの回答者を静岡ブルーレヴズのホームゲームに招待(抽選)
その他の取組	—	・特設サイト開設、バス動画制作 ・後援名義取得(県教育委員会、静岡県私学協会)
協賛企業・団体	—	・協賛体制の確立 (静鉄グループ、(一社)静岡県自動車会議所、(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部)

3

成果と課題（R7実施結果より）

成果

項目	内容
利用者数	・子どもの利用者は前週から増加（約2.5倍）
利用促進効果	・バスに乗った小学生のうち、普段バスに乗らない（ほとんど乗らない）と回答した小学生の割合は64%
意識、行動の変化	・昨年度のバス無料デーを知っていた小学生のうち、バスに乗ることが「増えた」と回答した小学生は、「減った」と回答した数の2倍（12%） ・昨年度のバス無料デーと比べ、バスがすきになったと回答した小学生は23%（低学年は約40%） ・バスに乗った小学生のうち、バス運転手の仕事を「もっと知りたい」という気持ちが強まった小学生は44%（低学年は59%） ・バス無料デーにバスに乗った小学生の76%がとても楽しかったと回答（低学年では80%） ・バス無料デーにバスに乗った保護者等の39%が「無料デーがなければ出かけていなかった」と回答 ・バス乗った保護者等の全員が、バス無料デーが「自分や家族が公共交通に乗るきっかけのひとつになった」と回答 ・バスに乗らなかった保護者等の94.2%が、今後バス無料デーがあったら子どもをバスに乗せたいと回答 ・保護者等の90%が、「住んでいるまちにバスがあること」は、今後もこの地域に住み続けたいと思う理由のひとつになると回答

資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより



モビリティ・マネジメントの取組としては一定の効果が見られた。意識や行動の変容は、繰り返し行うことで徐々に浸透していくものであることから、継続して取り組む必要がある

4

成果と課題（R7実施結果より）

課題

項目	内容
周知面	・小学生の42%が今年度のバス無料デーを知らなかったと回答（昨年度と同水準） ・情報入手経路は「学校の先生から聞いた」と「チラシで見た」が大半（保護者等も同様の傾向） ・リーフレットの持参を忘れてくる人、無料デーを知らない人がいた ・まだ児童が自主的に参加するまでには取組が定着していないものと考えられるため、学校やその他団体（小学校関連）による協力が重要
運用面	実施日 ・バスに乗らなかった理由では、予定が合わなかったことが主な理由（「他に用事があったから」55%、「子どもは乗りたがったが自分に用事があったから」（17%））
	対象者 ・未就学児の対応が事業者で異なる（利用者にとって分かりづらく、未就学児を連れたお出かけを躊躇うケースも） ・県外小学生の対応（区別がつきにくい、県内外に関係なく全ての小学生を対象にしてほしい等）
	その他 ・乗務員のアナウンスの内容等を決めておく ・対象外の路線の周知（リーフレットへの記載やバス停への掲出など） ・整理券を取るように周知徹底してほしい ・転倒事故の危険性と防止のための説明をパンフレットに載せていただきたい

資料：事業者アンケート、小学生アンケート、保護者アンケートより

5

2026実施計画

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生※ <u>及び未就学児</u> ※国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校等の全児童
実施日	令和8年12月12日（土）～13日（日）、19日（土）～20（日）4日間
利用方法	リーフレット（紙またはスマホ画像）をバス運転士に提示
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり）
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会（令和6年4月24日設置） 構成員：国、県、市町、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局：静岡県バス協会、県交通政策課（組織改正によりR8.4～課名変更）
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター
協賛企業・団体	静鉄グループ、（一社）静岡県自動車会議所、（一社）日本自動車販売協会連合会静岡県支部 ※協賛企業は随時募集
後援	県教育委員会、静岡県私学協会（7月頃名義取得予定）

6

2026実施計画

◎主な変更点と取組のポイント

	内容	考え方
実施日	12/12（土）～12/13（日） 12/19（土）～12/20（日） <u>4日間</u>	実施日を増やすことにより、新たな利用者増につなげる
対象者	小学生以下（ <u>幼児を含む</u> ）は <u>全員無料</u>	家族・兄弟姉妹等でのお出かけを促進する
利用方法	リーフレットをバス運転士に提示 （紙のほか <u>スマホ画面による提示</u> でも可）	スマホ画像による提示を試行的に実施
周知/ 広報	<u>タイアップ施設</u>	無料デーを早めに告知（5月～） 早期告知により、タイアップ施設によるイベント企画や広報を可能にする
	<u>学校（教職員等）</u>	- 学校、教職員向け説明ペーパーの作成 - バス動画の活用 協力学校を増やす
	<u>学外（小学校関連）</u>	（例） - スポーツ団体、学習塾、保育園、幼稚園等 - 自治会、PTAや保護者向けSNS、スーパー等 学校以外の団体に賛同・協力者を増やす

7

(参考)今後の無料デー定着に向けたアイデア

◎今後に向けたアイデア（これまでに取組があったものを含む）

区分	内容	考え方
期間中にバスを使いこなすアイデア	- 無料デーと合わせた、スタンプラリー等の企画 - 拠点ターミナル等から、バスを乗り継いで出かけるモデルコースを例示	アンケートでは、無料なのに2回しか乗らない回答者が多かった
大人の同行を促すアイデア	無料デーと合わせた、バス車内お絵描き展	アンケート結果から、同行した保護者等に対するM Mの意義も大きい
無料デーの印象を実施後も継続させるアイデア	無料デーのバス乗車体験談、バス写真コンクール、特設サイトで紹介等	アンケートでは、去年の無料デーのことをおぼえていない児童が少なくない
リーフレット	リーフレットの一部に、カードサイズの「PASS（参加賞学校の証）」画像を入れ、切り取って定期入れやネックストラップ等に入れて持ち運びできるようにする	乗降時間の短縮や乗務員の負担軽減

資料：調査会社報告「まとめと今後に向けたご助言・アイデア等」より

8

実施スケジュール(案)

月日	内容
4月23日	○実行委員会（第9回）の開催、実施計画の決定
5月上旬	- 各学校長あて小学生バス無料デーへの協力依頼を発出 ※4/24県校長会理事会で説明済（県） - 市町教育委員会・私立学校に通知①
5月下旬～	- プレスリリース①（実施日）、タイアップイベントの募集 - 市町地域交通会議等での説明（県）
6月～	○実行委員会（第10回※書面協議）の開催、収支予算の承認、実施路線調査 - 運賃協議会での承認（市町）
9月	市町教育委員会・私立学校に通知②、バスの日（9/20）に合わせた広報
10月	特設サイト公開
11月	各学校経由で小学生に無料デーフリーパスを発送、プレスリリース②（一斉広報）
12月	プレスリリース③（取材依頼）、小学生バス無料デーの実施（12～13、19～20）
～3月	利用者アンケート等のとりまとめ（効果検証）、翌年度実施検討 ○実行委員会（第11回）の開催、成果報告等、プレスリリース④（結果公表）

昨年度承認済みの場合は省略可

県活性化協議会報告（8月）

県活性化協議会報告（3月）

9

(参考)JCOMMへのエントリー



JCOMM

日本モビリティ・マネジメント会議

Japanese Conference On Mobility Management

・目的

モビリティ・マネジメントが効果的に広範に推進されることを支援（年1回開催）

・主催

（一社）日本モビリティ・マネジメント会議
（国土交通省と（社）土木学会による共同開催）

・参加者

学識者、官公庁、企業・団体

・内容

自動運転技術の研究
スマートシティ構想への貢献
交通政策との連携
講演・パネル、研究発表、**ポスター展示**など

・テーマ

持続可能で人にやさしいモビリティの実現

第21回会議概要

開催日：2026年9月4日(金) - 5日(土)

会場：新潟県湯沢町

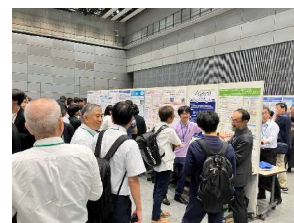
第20回（昨年）の反響



良い取組なので、当社が開催しているモビリティ・マネジメント技術講習会で事例紹介をしてほしい。【計量計画研究所】



その他、本県のイベントを参考にさせてもらいたいという意見多数！！



【ポスター発表の様子】

10

【結果公表】2025 静岡県小学生バス無料デー (子どもの利用は前週の約 2.5 倍、利用意識や行動に変化も)

(ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会事務局 交通基盤部交通政策課)

令和 7 年 12 月 13 日(土)～14 日(日)の 2 日間、身近な公共交通である路線バスの活用を促進するため、県内の小学生を対象にバス無料デーを実施しました。

全国初の取組となった昨年度に続く 2 回目の実施で、昨年度のバス無料デー実施前と比べ、利用者のバスへの意識や行動に変化が見られました。

1 実施概要

(1) 対象者

県内の全小学生(国公立・私立小学校、特別支援学校等含む)約 168,000 人

(2) 対象のバス

県内を運行する路線バス、県内のコミュニティバス(一部路線・区間を除く)

(3) 利用方法

リーフレットをバス運転士に提示

(4) 主催

ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会

構成員：国土交通省静岡運輸支局、県、市町、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者 13 社

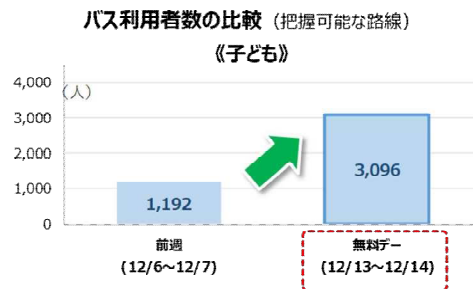
2 実施結果(まとめ)

- (1) 2 回目となる今回のバス無料デーでも、普段バスを利用しない層のバス利用が促進された。
- (2) また、初回のバス無料デー実施前との比較では、その後の意識や行動の変容について、子どもだけでなく、同行する大人にも一定の効果が認められた。
- (3) 一方で、バス無料デーを知らなかった、バスに乗らなかった小学生は多く、繰り返し実施することで、新たな需要の掘り起こしにつながるとともに、バス利用に対する意識や行動が徐々に変容していくことを考えれば、バス無料デーを毎年継続して取り組む意義があるものと考えられる。
- (4) JR 東海が「バス無料デー」に合わせて初めて実施した、特別企画乗車券の発売では、普段鉄道やバス等を利用する機会の少ない小学生に公共交通に触れる機会を提供するなど、バスをはじめとする公共交通への新たな利用促進の可能性を示した。

3 実施結果(詳細)

(1) 利用者数

- ・バス無料デーの子どもの利用者は前週と比較して増加した(約 2.5 倍)

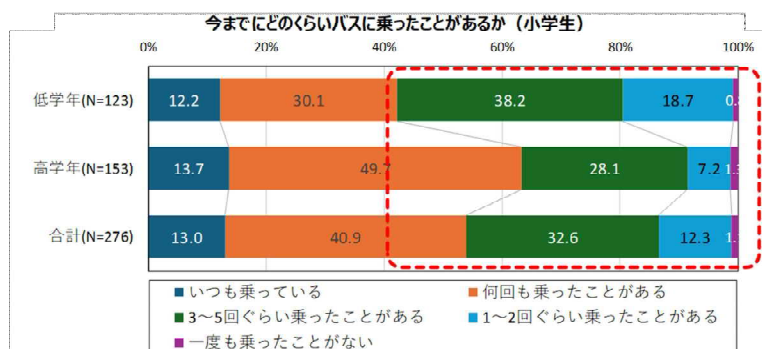


※バス事業者からの報告により無料デー当日の人数把握ができたもののみカウント

(資料：事業者アンケート)

(2) 利用促進効果

- 無料デーにバスに乗った小学生（回答者）のうち、これまでのバス利用回数が3～5回以下の小学生が全体で46%、低学年では60%を占め、無料デーが、普段バスを利用しない小学生が、“バスの利用を体験する機会”となった

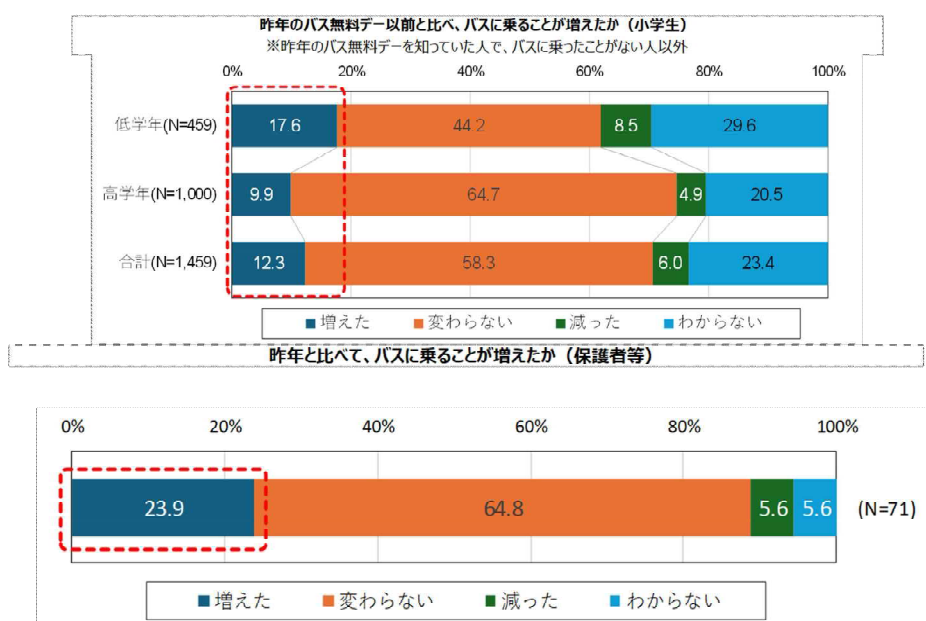


（資料：小学生アンケート）

(3) バス利用の行動・意識変化

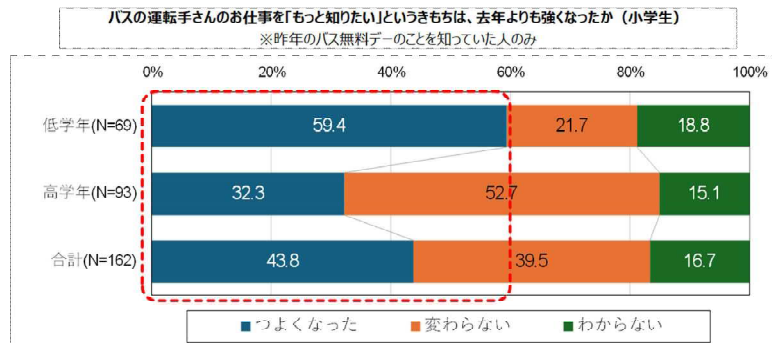
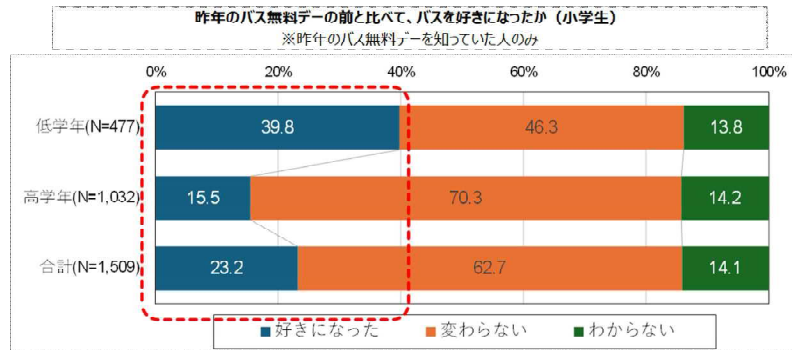
ア 行動変化

- バスに乗ることが「増えた」と回答した小学生は12%（「減った」6%）、保護者では「増えた」が24%（「減った」6%）で、いずれも「増えた」と回答した人が増加した



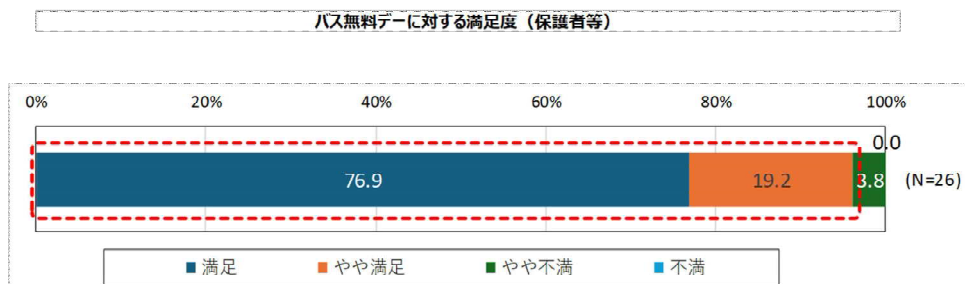
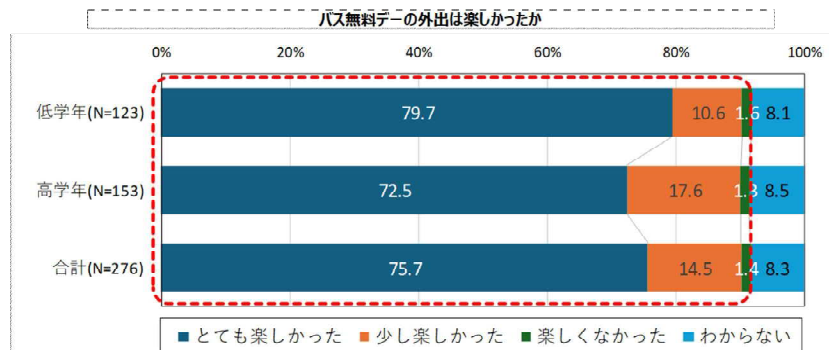
イ 意識変化

- 昨年度の無料デー前と比べ、低学年の40%がバスを「好きになった」と回答。運転手への関心度では、低学年の60%が「バスの運転手さんのお仕事を「もっと知りたい」気持ちが強まった」と回答した ※学年別で差が大きい



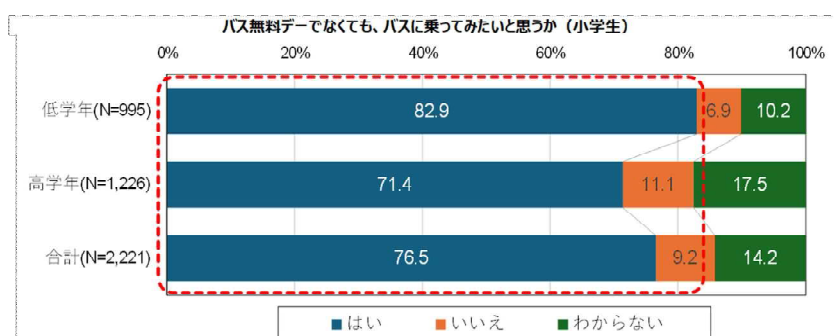
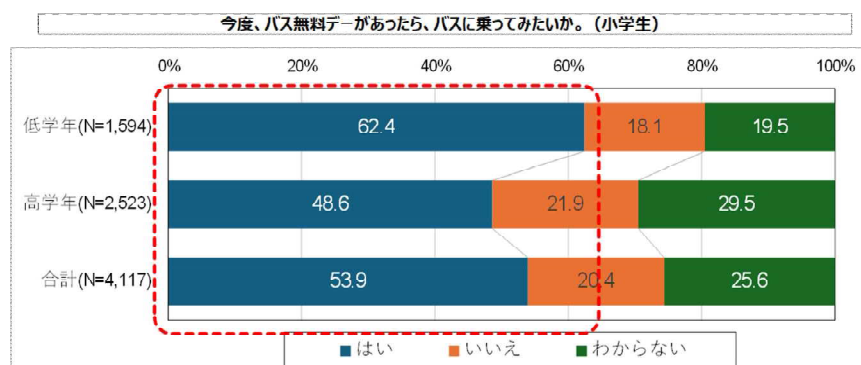
ウ 満足度等

- バス無料デーが「楽しかった」と回答した小学生は約 90%（「少し楽しかった」を含む）、保護者も「満足」「やや満足」と回答した人が 96%を占めた

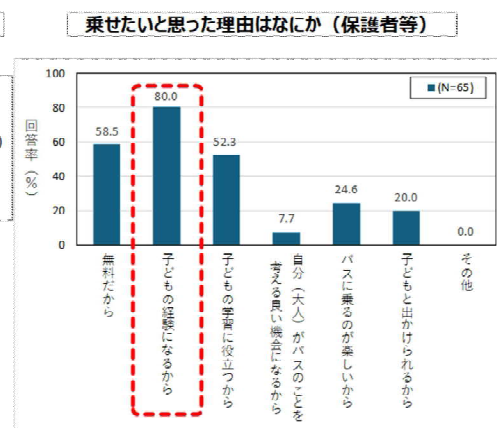
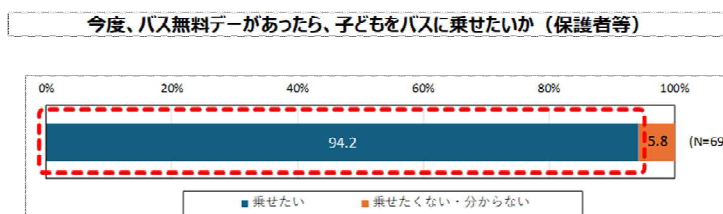


エ 今後の利用意向

- 小学生では、合計で「はい」が 54%を占め、「いいえ」の 20%を大きく上回っている
- バス無料デーでなくてもバスに乗ってみたいと思うかの質問には、合計では「はい」が 77%と高い割合を占めた

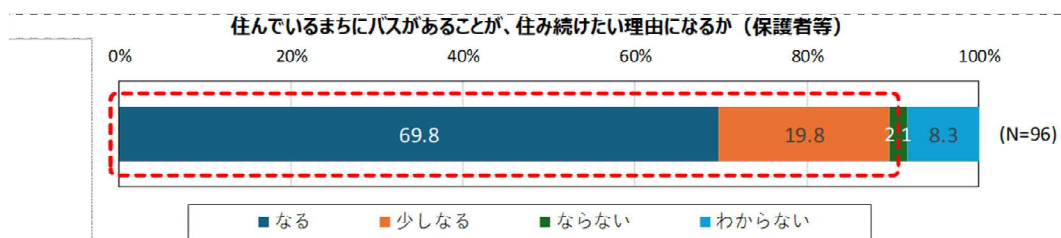


- ・保護者等では、子どもをバスに「乗せたい」が94%を占め、乗せたいと思った理由では「子どもの経験になるから」が80%で最も高かった

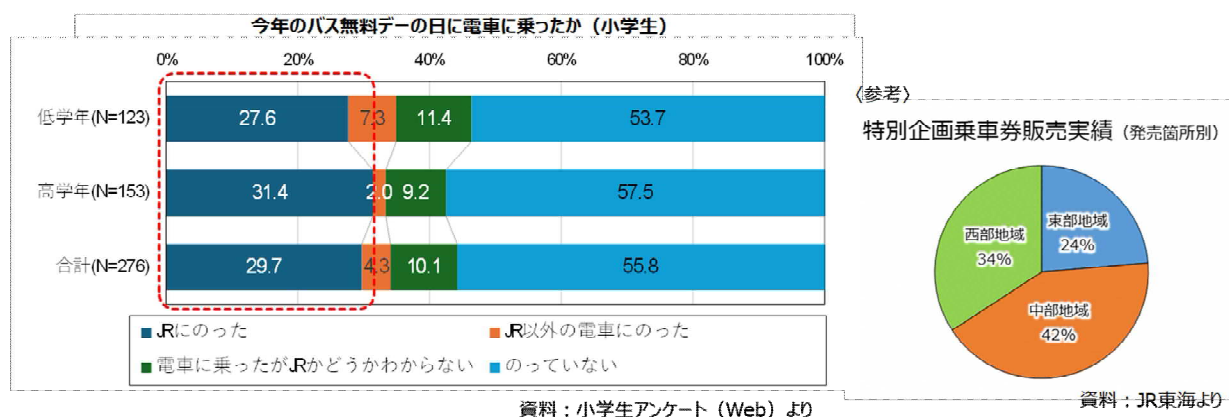


オ その他

- ・保護者等の90%が、「住んでいるまちにバスがあること」は今後もこの地域に住み続けたいと思う理由のひとつになると回答した



- ・バス無料デーに、「JR にのった」と回答した小学生は 30%。JR 東海によれば、「静岡県小学生バス無料デー」に合わせて発売した特別企画乗車券(※)は、2 日間で約 2,300 枚の発売があった



※静岡県内の学校に通学する小学生を対象に、JR 線（東海道本線「熱海～豊橋」、御殿場線「沼津～国府津」、身延線「富士～甲府」）が乗り放題となる特別企画乗車券を 100 円で発売

（資料：①～⑤小学生、保護者等アンケート、JR 東海提供資料）

▼調査方法等の実施結果の詳細は、「2025 静岡県小学生バス無料デー実施結果」のページをご覧ください。

<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/1080305.html>